峡東地域教育情報誌 第162号

エリアウェッブ

1月

掲載内容
- 峡地連「人権のための講演会」抜粋
- 峡東地域の教育活動/イベント等の紹介
- 峡東教育事務所からのお知らせ

令和5年11月16日に山梨市民会館で行われた峡地連「人権のための講演会」からの【抜粋】です。

講演会テーマ 『こどものミカタ～不登校を題材に、味方になりたい私の見方～』

正論はナイフ

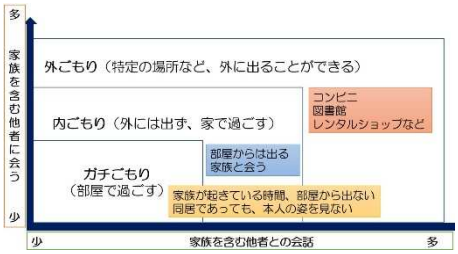
芦沢 茂喜 氏
国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科卒業。東京都立大学大学院社会科学研究科修士課程で社会福祉学、信州大学大学院社会政策科学科修士課程を修了。現在は峡東保健福祉事務所に勤務。精神保健福祉士・社会福祉士・ジョブコーチ

不登校やひきこもりの相談を受け始めた時、私は不登校であれば学校に行く、 ひきこもりであれば、外に出ることが良いことだと思っていました。 そんな思いから、本人やご家族にアドバイスをしていましたが、アドバイスをすればするほど、本人とは会えなくなり、 ご家族からは動きがあったら連絡しますと言われるようになりました。「私は良いことをしているのになぜ?」そんな中で、一人の当事者から「正論はナイフだ」と言われました。私がしていることは正論かもしれないけど、本人にとっては自分に向かってくるナイフ。 私は味方になりたいと思っていたのに、本人の敵になっていた?

第3の選択肢

私のいるところに来て下さいと言って、来れる人もいますが、来れない人もいます。近くの公共施設であっても、人がいるところは嫌と言う人がいます。それならば、自宅に私がいきますと言い、行くことができれば良いですが、人が自宅に来ることを嫌がる人もいます。出ていくのもダメ、自宅に来るのもダメといった際に、本人が希望するところに車で出向き、相談室に改造された車内で話を聞くという形を作ることにしました。【対話を届け、声を伝えるプロジェクト「つむぎ」】

ひきこもりの再生産を止める



「不登校→ニート→精神保健→長期化・高年齢化→貧困」と同じ対象者に違うラベルを貼っている。 ひきこもりの再生産を止める必要があります。学校の先生方などが関わる学齢期を経て、ひきこもり続ける事例。学生の間は関わる理由を作ることができるが、学生から離れ年齢を重ねると本人と関わる理由はなくなっていく。

普通を求めると、相手との関係は不通になる

問題だけを見ていると、私たちは私たちの中にある「普通」という物差しで相手の状態を判断します。「普通」という言葉が出てくる時、私たちは相手の粗を探してしまう。「もっと頑張れる」、「甘えている」→「自己責任」という言葉が出てきます。そうなると、相手との関係は途切れ、話はできない状態になります。 「普通」の話をすると、相手との関係が「不通」になってしまう。

ひきこもり（不登校児）は、助けて下さいと言えない人

彼ら・彼女らが助けて下さいと言えるようにしていく。言える環境にしていく必要がある。大事なことは、 誰にも甘えずに、自分たちだけでどうにかすることではなく、一か所に負担がいかないように、頼っていくこと。原因探しをしても、誰も楽にはならない。不登校をどうにかしようと引っ張ろうとすれば、それに反応し、踏ん張ろうとする力が働いてしまう。眠れない時に、眠れないと思えば思う程、眠れなくなる。不登校の話をすればする程、不登校は続く。意識がそこに集中すれば、他のところに目がいかなくなる。

よくある質問から

「分からないと言えない」と言われます。特に学校の先生方からは「立場上言えない」と言われます。人の話を聞く上で大事なことは、こちらは答えを持たず、そのまま聞く。相手が聞いてもらえていないと感じる以上、私たちが聞いたと言っても堂々巡り。分からないという言葉だけで終わってしまったらダメ。「どうしたら良いか私にも分からないから、一緒に考えよう」そこからスタートする。

支援の3か条

◇一定のリズムで訪問（一定の間隔で訪問を重ねる。訪問することがリズムとなる）
◇正論は言わない（誰もが話すであろうことは言わない。私を主語に、私が何を感じ、何を思っているのかを話す）
◇ゴールを求めない（本人と会えるか否かを問題にしない。本人が動かなくても、私の行動は変えない）

最後に

「過去」と「彼ら」は変えられない。変えられるのは、「私」と「これから」。 戻らない「過去」でも、分からない「未来」でもなく、「今」を認める。

「租税教室」～暮らしと税を考える～　甲州市立奥野田小学校・甲州市役所税務課

意外と知らないことがたくさんある

１０月２０日に奥野田小学校の６年生を対象に「租税教室」が行われました。国民の三大義務は「教育の義務」「勤労の義務」「納税の義務」ですが、普段は税金について考える機会はあまりありません。税の仕組みを知る上では今回は非常に有益な時間となりました。まず税金についてクイズ形式で学びます。例えば Q:税金は何種類あるの？A:所得税や消費税のような身近なものを含めて「約５０種類」です。（どんな税があるのか調べるのも楽しいと思います）続いて税の集め方と使い道について学びました。身の回りにある施設が公共施設であるか否かを確認し、そこでどのように税金が使われているかを考えます。また、教育費に税金がどのくらい使われているかを知ると、その金額に驚きの声もあがりました。最後に１億円分のお札を持ってその重さを感じる体験をして、租税教室は終了となりました。

「結構重い！」という声が多かった

「いのちとは教えるものではなく、伝えるものでも、理解させようとするものではない」～自らの気づきを熟成するための授業～　笛吹市立石和西小学校

「自分で考えること」の大切さを伝える

１１月８日に石和西小学校の５・６年生を対象に「いのちの授業」が行われました。講師の渡辺久さんは 2007 年に NPO 法人を立ち上げ、延べ 700 機関で「いのちの授業」を行ってきました。渡辺さんが授業をするうえで心がけているのは、命に関しては教え・理解させるのではなく、子どもたちの心中から引き出すことが大切であること。教えられた知識は時間の経過とともに薄れてしまいますが、自らの気づきによって創出された思いは忘れることはありません。何気ない日常にある大切なものへ気づきや命と向き合った少女の話を通じながら、子どもたちは考え、そして自分の言葉で語り始めます。以下はある児童の感想になります。「人はみんな命なんか当たり前にあると思って生きています。実際ぼくもそう思って生きてきましたが、いのちの授業を受けて毎日元気に過ごすのは奇跡の連続だということを思い知らされました。『命さえあれば必ず前に進んでいける』というひとみさんの話のように、命を大切にしようと思います。」

言葉に出して初めて分かることがある

「体験して分かること」～バリアフリー教室～　山梨市立山梨小学校・山梨運輸局

ちょっとした心遣いが大切です

１２月６日に山梨小学校４年生を対象に「バリアフリー教室」が行われました。県タクシー協会・県自動車整備振興会・山梨市社会福祉協議会・甲州タクシーの協力のもと、車椅子体験・白杖体験・UD（ユニバーサルデザイン）タクシー乗降体験を行いました。山梨運輸局菊池支局長から挨拶にあった「社会には身体だけでなく心のバリアがあり、それを取り除くのが大切。困っている人に『何かお手伝いすることがありますか』と声かけをできる人になってください」との言葉は、子どもだけでなく大人も胸に留めるべきものだと思います。続いて子どもたちは３グループ分かれて体験を行いました。普段なら気にならないようなちょっとした段差があることで、思ったように行動できないことを知ります。また、車内空間・乗降口・車椅子乗降口などの工夫がされた UD タクシーでは、車椅子で利用する場合に運転手一人で対応することが可能です。現代社会においては、技術と知恵を駆使しながらも「持続可能」であるかが常に問われます。日々の生活において考えるきっかけを与えてくれた時間となりました。

UD タクシーで車椅子の乗降を体験

「みんなの思いをつなぎながら奏でる」～演奏できることの喜び～

甲州市立松里中学校・甲州市井尻公民館

3年生にとって校外でのラストステージ

松里中学校音楽部の３年生はコロナの影響により多くの演奏機会を奪われてきました。現在部員は14名ですが、先輩が一人しかいない時期もありました。聴衆の前で演奏できるのかが未定な中であっても、地道に練習を積み重ねてきました。本年度になって発表する機会が戻り始めました。３年生にとって今回の「井尻公民館ふれあい祭」が校外での最後の演奏となります。100名を超える聴衆の中で全体合奏13曲を演奏。その中の４曲は３年生のみの演奏です。色々な思いを込めた一音一音が聴衆の胸に染み渡ります。全員が未経験者からスタートし、３年間の積みかさねによって生徒は大きく成長しました。「初めた頃は１ミリも指が動かなかったけど、仲間と切磋琢磨しながら取り組んできた。」「３年間いっぱい練習をして、上手になっていくのがうれしかった」という３年生のコメント。つらいながらも充実した体験であったことが言葉の端々から伝わってきました。

一音一音を丁寧に奏でる

校長先生・顧問の先生も参加

「秋の大収穫祭」～開始前から各所で大行列です～

高等支援学校桃花台学園

野菜コーナーは常時多くの人が並ぶ

11月18日に笛吹市の桃花台学園において「2023桃花ダイスキマーケット秋の大収穫祭」が行われました。昨年度から一般開放を再開し、近隣からも多くの人が来場する一大イベントとなっています。本年度も来場予約が 500 人を超えるなど、昨年度以上の熱気に包まれていました。農業生産コース・環境メンテナンスコース・食品加工コースの生徒たちが心を込めて作った野菜・花・お菓子などが校内各所に所狭しと並んでいます。開始と同時にどのブースも多くの人だかり。手一杯に買い物をした来場者はみんな笑顔です。対応する生徒たちの笑顔いっぱいで、「ありがとうございました！」の声が響きわたる楽しい秋の日となりました。

限定200コ「天使のこももの桃メロン」

生徒のセンスが光る寄せ植え鉢

📣📣📣　峡東教育事務所からのお知らせ　📣📣📣

① 来年度の山梨ことぶき勧学院の募集が始まります。詳細は「募集要項」「山梨ことぶき勧学院ホームページ」でご確認ください。なお、来年度から甲府教室の名称が「甲府・峡東教室」に変更となります。現在も峡東地区在住の方が多く在籍しています！

出願期間：令和６年２月１日（木）～３月15日（金）

出願先・問合せ先：山梨ことぶき勧学院（事務局）☎055-233-6947

② 取材用の情報提供をお待ちしております。☎0553－20-2731（直通）

③ 地域教育情報誌エリアウェッブのバックナンバーは峡東教育事務所HPからダウンロード可能です。（「峡東教育事務所」または「エリアウェッブ」で検索）

「デフリンピック銅メダリストとの交流」～世界レベルを感じた～　県立ろう学校

フリーディスカッションでの話し合い

２０２２年、第２４回夏季デフリンピック（開催地：ブラジル）に日本代表として出場し、銅メダルを獲得した亀澤史憲（かめざわふみのり）さんが、11 月２２日に母校である県立ろう学校に帰ってきました。当日は、幼稚部との交流・保護者学習会や中高等部との交流授業・卓球部の技術指導を行いました。今回の交流で子供たちは、卓球の楽しさを知るとともに、先輩であり社会で活躍する成人ろうあ者と直接触れ合うことで、夢や希望を膨らませるとともに、普段の生活の励みにもなりました。本年度、ろう学校卓球部は、全国ろう学校大会女子団体戦で準優勝となる活躍をしています。卓球部の部員たちにとっては、デフリンピックメダリストに直接指導をしていただき、「世界」の魅力を感じることができた貴重な時間となりました。

先輩からの具体的アドバイス

「食を介しての交流授業」～味・ボリュームともに抜群でした！～

まずは具材の下準備から始める

記者もおいしくいただきました(^o^)

甲州市立神金小学校・甲州市健康増進課　「食育」とは生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。（農林水産省 HP より）11 月 15 日に神金小学校の家庭科室において、小学生と地域の方による「子ども料理教室」が行われました。甲州市食生活改善委員さん４名を講師に迎えて、楽しく調理を行いました。メニューはおにぎらず・サラダ・中華スープの３種類。具材を切る際・火を使う際には怪我がないように十分に注意します。みんなで協力しながら計画的に調理したこともあって無事時間内に料理が完成しました。自分たちで作った料理の味は格別ですが、ひとつの料理をつくるのにも多くの手間と愛情があることを知った時間となりました。

レシピで細かい点を確認する

「福祉ボランティア体験」～自分に何ができるのかを意識する～

笛吹市立一宮西小学校・笛吹市社会福祉協議会

福寿会・地域活動について伝えます

12 月６日に一宮西小学校の６年生を対象に「福祉ボランティア体験」が行われました。笛吹市社会福祉協議会一宮地区でボランティア活動に携わる６人が来校し、自身が携わるボランティア活動について伝えました。普段は生活支援・シルバー体操・困りごと相談などを行っている講師の方たちからは「自分から進んで役に立つことをやる」「自分が楽しくなければ、ボランティアは続かない」「自分にはなにができるのか、どんなことができるのかを考える機会になるといい」という実践的なアドバイスがありました。子どもたちからは「高齢者の話を聞くだけでもボランティアになることを知りました」「小さなボランティアであっても、大切なことをしているのだと気づきました」という気づきについての感想が多く寄せられました。文部科学省の定めるボランティア活動の基本理念は、公共性・自発性・先駆性です。きっと生徒たちにとって「自分には何ができるのか？」を考えるきっかけにはなったはずです。

子どもたちと一緒に考えます

「親子しめ飾りづくり教室」～４年ぶりの開催となります！～

山梨市立日川小学校・東山梨地区社会教育の会

普段はやらない作業なので大変

１２月９日に日川小学校体育館において「親子しめ飾りづくり教室」が行われました。東山梨地区社会教育の会のメンバーが講師を務め、６組の親子が参加しました。まず午前に社会教育のメンバーが集まって、事前に古明地正代さんの指導のもと『しめ飾り』の作り方を再確認。４年ぶりの開催ということで作業の確認は大切です。その中で 20 数年前から『しめ飾り』指導のリーダー的存在であった古明地正代さんが、今回をもって指導者を卒業することになりました。他のメンバーも感慨深いものがあります。午後は親子が集まり、教室が開始。各組に指導者が一人ずつつきながら、わらをねじって巻いたり、針金でとめたり、糸で縫ったり。慣れない作業ですが、親子で協力しながら作製をすすめていきます。そして、しめ飾りが完成。できあがった『しめ飾り』をながめる親子の様子は満足気です。最後の写真撮影では「はじめてだったけど、楽しかった」「正月に玄関に飾るのが楽しみだ」と、みんな満面の笑みでした。

立派なしめ飾りが完成してみんな笑顔

「高校生と大人の本音の語らい場」～今回で通算６回目になります～

甲州市社会教育委員の会・県立塩山高等学校

模造紙に各自の意見を分類していく

12 月４日塩山高校創叡館において、「高校生の目を通して地域を考えよう～高校生と大人の本音の語らい場～」が行われました。社会教育委員と高校生が世代を超えて意見交換を行うことで市に新しい風を吹かせるため、平成 29 年度から実施をしています。今回は SDGｓ目標５の「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマに社会教育委員と高校生を５グループに分けて語らいを行いました。語らいの流れは①自己紹介②自分が考えたことを付箋に書く③模造紙に付箋を分類する④各班のまとめを発表するですが、唯一のルールは「相手の意見を否定しない」ことです。最初はお互いに緊張気味でしたが、時間がたつにつれ活発な意見交換になっていきました。まとめに行った各班の発表では、高校生が自分なりの言葉で伝えたこともあって、非常に説得力があるものでした。今回のテーマは一日で簡単に解決できる問題ではありませんが、そのきっかけになったと期待できる貴重な時間となりました。

自分の言葉で説明するから説得力がある

「幼児との交流会にサンタが登場！」八代花鳥保育所・日赤奉仕団八代分団

どっちが赤十字のマークか分かる？

日赤奉仕団は日本赤十字社のボランティアグループで、地域社会への貢献活動を行っています。高齢者支援、児童の健全育成、災害救護・防災、赤十字の PR など多岐にわたる活動を展開し、全国に約 2915 団約 119 万人のボランティアが所属しています。１１月１５日には八代分団が花鳥保育所を訪れての交流会を行いました。「おはようございます。よろしくお願いします！」の大きな挨拶から始まった交流会。紙芝居の後にはサンタが登場して、クリスマスプレゼントをもらった子どもたちは大満足。「ありがとうございました」と感謝の言葉を述べる子どもたちの純真なまなざしと笑顔。参加した大人もいっぱいの元気をもらうことができました。

そりに乗ってサンタが登場！

「体験学習・乳幼児とのふれあい」～保育・子育ての大切さを学ぶ～

笛吹市立石和中学校・わかば保育園

子どもたちの視線に少し緊張

自然と笑顔がこぼれます

石和中学校３年生 171 名が、乳幼児の心身の発達・成長を知り、人と人とのかかわりの大切さを学ぶ機会として、中学校の技術・家庭科の授業の中で近隣のわかば保育園を訪問し、園児と交流を行いました。核家族化が進み日頃は乳幼児に接することのない生徒が多い中、この日ばかりは男子生徒も女子生徒も、園児たちと無邪気に遊ぶ姿がありました。「親の苦労が少しだけ分かりました。本当に貴重な体験をありがとうございました。」「園児の皆さんと触れ合えたことで、新しい発見や幼児への接し方など、様々な学びがありました。小さい子の気持ちを察することが難しかったです。」などの感想も寄せられました。園児たちの純粋さや可愛らしさに触れることで、中学生にも自然と笑顔が溢れていました。別れの際には園児とハグやたかいたかいをする姿もみられました。短い時間でしたが、園児とのふれあいを通して人と人とのかかわりの大切さを学ぶ貴重な時間となりました。

手作りだからこそ伝わる思い

「チャレンジして視野を広げよう」～先輩から後輩へ～　山梨市立山梨北中学校

自分の言葉で話すので説得力がある

12 月 7 日に山梨北中学校の 2 年生を対象に「職業講話」が行われました。講師は同中学の先輩である市川真樹さん（いちかわべりーハウス３代目）と丸山晃一さん（（株）まるしごと代表取締役）が務めました。市川さんは当初農家を継ぐことは考えていませんでしたが，コロナ禍で逆境に立った実家農園を SNS 等のアイディアで乗り越えました。現在は農業の枠を超えた活動を展開しながら「農業のイメージを明るく変え、若者の農業人口を増やすこと」を目標に日々奮闘しています。丸山さんは大学卒業後、東京で働く中で次第に「地元山梨に何か貢献できる仕事はないか」と考えるようになりました。自分らしく生きやすい社会を作りたいという思いから帰郷・起業し、現在は山梨北中学校 CS の運営メンバーとして、学校と地域の橋渡し役を担っています。2 人からのアドバイスで共通しているのは「積極的にチャレンジ」すること。人は実際に経験したことからは失敗も含めて多くのことを学ぶことができます。まずは「やってみること」。そこから無限の可能性が広がっていくことを教えてくれた時間となりました。

就きたい仕事をタブレットで入力

「GO　FORWARD！」～勇気を持って前へ進め～　甲州市立塩山南小学校

しっかり声を掛け合うことが大切

みんなで前回までの確認をする

塩山南小学校では 10 月から山梨学院大学の吉田浩二教授を講師に迎え、タグラグビー教室を行いました。タグラグビーでは危険なタックルを避けるため、プレイヤーの腰にタグと呼ばれる飾りヒモをつけます。相手がタグを取るとそれがタックルの代わりになり、タグが 4 回取られると攻撃権は相手へ。ランとパスをしながら、相手のゴールライン目指しトライを狙います。取材した日は、まず前回までの確認をして、みんなで声をかけながらアップを行いました。この日は初めての試合形式の練習でした。センターラインに整列して挨拶を交わしてから試合開始。子どもたちは最初遠慮がちでしたが、次第に白熱していきました。休憩時には「こう攻めればいいよ」「守り方が分からない」などと戦術を考える場面もありました。終盤にはラグビーらしいプレーが随所で見られました。最後の授業までにさらに上達するのが楽しみになりました。

前を向き仲間を信じて全力で走る